

発表題目

女性はマイノリティと考えられる－「考える力」をつけるために(不)必要なものを事例研究から考察する－

明日 誠一(Seiichi MYOGA)

青山学院大学非常勤講師

1. はじめに

「考える力」をつけるためには何が必要か? この問いに、本年 2019 年 2 月 26 日に実施された「京都大学前期日程英語大問 III」という事例を基に具体的に考察する。

(1)

III

次の文章を英訳しなさい。

(25 点)

「マイノリティ」という言葉を聞くと、全体のなかの少数者をまず思い浮かべるかもしれない。しかし、マイノリティという概念を数だけの問題に還元するのは間違いのもとである。人種あるいは宗教のような属性によって定義づけられる集団は、歴史的、文化的な条件によって社会的弱者になっている場合、マイノリティと呼ばれる。こうした意味で、数としては少なくない集団でもマイノリティとなる。例えば、組織の管理職のほとんどが男性である社会では、女性はマイノリティと考えられる。

(京都大学「[外国語\(英語\)問題のうち III のみ公開](#)」)

2. 何が必要で何が不必要なのか?

2.1. 十分な情報量を与えることが必要である

「マイノリティ」というのは、そもそも簡単に説明ができる問題ではない。

(2) A person of minority status may not necessarily be considered ethnically distinct or different. (Stanford 1991:192)

ポイントは not necessarily にある。つまり、「マイノリティ」の問題は例外を伴うので一般化して考えることが難しいのである。英訳に取り掛かるためには、事前に十分な情報量を得ておくことが必要であるが、この場合「十分な情報量」とは何だろうか? 例外を伴う場合には、(a)本質から説明する、(b)典型的な例を取り上げる、の 2 点が必要であろう。

2.1.1. 本質から説明する

例外のある問題では、essence から考えることが有益である。「マイノリティ」に関して、最も基本的であると同時に最も重要な特質(quality)とは何だろうか?

(3) In defining the term “minority group,” the presence of discrimination is the

identifying factor.

(Hacker 1951:60)

本来であれば、「差別の有無」を切り口に選ぶべきだったのである。

一方、社会学の標準的なテキストは numerical minority についてどう考えるのだろうか。

(4) **DEBUNKING Society's Myths** ←

Myth: Minority groups are those with the least numerical representation in society.

Sociological Perspective: A minority group is any group, regardless of size, that is singled out in society for unfair treatment and that generally occupies a lower status in the society.

(M. L. Andersen and H. F. Taylor, *Sociology, 9th ed.*)

(1)は、社会学からテーマを選んでおきながら、本質から外れ、「誤った社会通念」であるはずの「数」に視点を置いて議論しているために、正しく考えることを妨げている。

2.1.2. 典型的な例を取り上げる

私たちは、「X とは何か?」という問いに直面したときに、通例、定義を思い浮かべるが、定義というのは、古典的には、essence を捉えたものなので、すべての necessary characteristics を網羅しているとは限らない。従って、より現実的に、実態を記述する descriptive の立場からは、minority groups の概念をいくつかの defining characteristics に解体して考えるアプローチが取られることがある。

(5) A minority group has five characteristics. Members of the group

- experience a pattern of disadvantage, which can range from mild (e.g., casual snubs or insults) to severe (e.g., slavery or genocide);
- have a socially visible mark of identification which may be physical (e.g., skin color), cultural (e.g., dress, language), or both;
- are aware of their disadvantaged status;
- are generally members of the group from birth; and
- tend to form intimate associations within the group.

Of these traits, the first two are the most important.

(J. F. Healey, *Race, Ethnicity, Gender and Class*)

「女性はマイノリティと考えられる」という主張が正しいかどうかを考察する場合、実は、3番目の are aware of their disadvantaged status が鍵になる。

差別を受ける側は、必然的に自分たちの当然の権利を獲得するために we-ness という連帯関係を構築し、egalitarian society を実現すべく、一致団結することが期待される。一致団結するからこそ、a ... group という「一つのまとまり」を成すと考えることができる。

しかし、男性と「性」のみで区別された「女性」全体を a minority group と一括りにし

て扱うことの妥当性を考えるうえで、we-ness という criterion は大きな問題を提起する。

少なくとも日本ではどうだろうか？ 男女雇用機会均等法が施行されて時久しくなるにも関わらず、なお不平等が幅を利かせている日本の社会の中で働く女性は we-ness という連帯意識を共有しているのだろうか？ 総合職と一般職で働く女性は分断されることなく we-ness を共有しているのだろうか？ 子供を幼稚園や保育園に預けている働く母親は、専業主婦の母親と we-ness を共有しているのだろうか？

(1)が正しく考えることを妨げているもう一つの理由として、女性が「マイノリティ」の典型的な例とは言い難いことを挙げるができる。

2.2. 論理的に整合させる

(1)の第5文は、例示としては唐突である。第2文で「性」を取り上げていないからである。また、「組織の管理職のほとんどが男性である社会(w_n)」は、「組織の管理職のほとんどが男性であるが、組織のトップのほとんどが女性である社会(w_1)」を含むが、この w_1 の世界においては、女性はマイノリティとは言えない。さらに深刻なのは、 w_n は「組織の管理職のほとんどが男性で、10人の管理職のうち、男性が7人、女性が3人であるが、男性職員は100人、女性職員が10人の社会(w_2)」を含むが、この w_2 の世界でも、女性はマイノリティとは言えない。(1)は「数」に拘泥しているが、実際は「割合」が問題である。

2.3. 英語の発想に合わせる

2.3.1. 「管理職のほとんどが男性である」は本来どう設定すべきだったか？

(1)は英訳問題なので、英語として通用するかどうかが必要である。視点は、本来、女性にあるので「管理職に占める女性の割合が低い」という趣旨のことを英語で書くように設定すべきだったのである。

- (6) a. Women are less likely to get promoted (than men).
b. Women have fewer promotion {prospects / chances} (than men).
c. Fewer women than men hold (administrative, executive, or) managerial {positions / jobs / responsibilities}.

2.3.2. 第3文は本来どう設定すべきだったか？

英語教育の視点から見ると、一番問題なのは第3文である。「考える力」を評価することに視点を置いた場合、第3文には、少なくとも3つの問題点がある。(a) X is a minority group. なのか A minority group is Y. なのか?, (b) 「属性によって定義づけられた」は英語ではどう表現すべきか?, (c) 「社会的弱者」は英語ではどう表現すべきか?の3つである。

2.3.2.1. 「属性によって定義づけられた」は英語ではどう表現すべきか？

(1)で言う「属性」は「英語の世界」では visible / observable な特性を持つもののことを指し、characteristics が好まれる。これは分類の手掛かりとなる点で、「定義づける」は日本語が誘導する define ではなく classify が妥当なところである。

2.3.2.2. 「社会的弱者」は英語ではどう表現すべきか?

discrimination は、Women and men are biologically different, but otherwise they are equal.を暗黙の前提とする。この点を押さえていれば、Women should have equal rights with men and thus be treated equally.という結論を導き出すことはそう難しいことではなく、京大が「社会的弱者」と表現したものは、「英語の世界」では、「社会的に不利益を被っている人々」というほどの意味で表現する必要があることに気づくだろう。つまり、disadvantage をキーワードに考えればよいことに気づくだろう。

2.3.2.3. X is a minority group.なのか A minority group is Y.なのか?

(1)の第3文は、X is a minority group.という predicational *be* の文と、A minority group is Y.という definitional *be* の文が混在しているために、読み手に不必要な混乱を与えている。第3文は(7)のような文を受験生が書けるように日本語を設定して出題すべきであった。(7) A group may be classified as a minority (group) on the basis of race, sex, religion and other characteristics. A minority group is any group that {is (socially) disadvantaged /holds low status in society} because of prejudice and discrimination.

3. 終わりに

「考える力」が大事であることに異論を唱える人はいないだろう。しかし、具体的にどう育むかという有効な手立てが見つからないとは言えないように思われる。本発表では、実際に出題された入試問題を例に、その検証を通して、例外のある事象に対する取り組み方、および、日本語をベースにしつつも、英語で表現するときの工夫について具体的な提言を試みた。

参考文献

- Hacker, H. M. 1951. "Women as a Minority Group." *Social Forces*, Vol. 30, No. 1, 60-69. Oxford: Oxford University Press.
- Stanford, E. P. 1991. "Minority Issues and Quality of Life in the Frail Elderly." In J. E. Birren, J. E. Lubben, J. C. Rowe and D. E. Deutchman eds., *The Concept and Measurement of Quality of Life in the Frail Elderly*, 191-204. San Diego: Academic Press. Inc.